

甲斐市立竜王北小学校 自己評価書（前期）

平成22年7月16日(金) 作成

校長 「古屋 昭彦」

記述者 職名 (校長)「古屋 昭彦」印

学校教育目標 「創造性豊かな心身共にたくましい子どもを育てる」

- ① 自ら学び深く考える子ども
- ② 心美しい思いやりのある子ども
- ③ 明るく健康でたくましい子ども

学校経営方針

- ・全ての教職員の力を集結する中で、職員組織の協力・支援体制を確立し活力のある学校の創造と教育目標の具現化に努める。
- ・教育目標の達成を目指した創意ある教育課程の編成、実施、評価に努める。
- ・確かな学力の向上を図るための学習指導の工夫と改善に努める。
- ・教職員と児童、児童相互のふれあいを深め、豊かな心を育むきめ細かな生徒指導に努める。
- ・教師として、常に研究と修養に努め、校内研究の充実を図ると共に、専門職としての資質能力の向上に努める。
- ・地域人材を活用した道徳教育の推進に努める。
- ・児童自らが進んで健康的な生活を送ることができる実践的な態度の育成に努める。
- ・教職員の支援体制の確立、家庭や関係機関との連携を通して、特別支援教育の充実に努める。
- ・安全な学校生活が送れるよう危機管理体制を確立する中で、教職員の危機管理意識の高揚に努める。
- ・保幼・小・中や家庭・地域・関係機関との連携を図ると共に、こまめな情報発信を通して、地域に開かれた学校づくりに努める。
- ・外国語（英語）活動において、ALTと連携を図る中で国際理解教育の推進に努める。
- ・教育環境の整備・充実を図り、教育活動における効果的活用と環境教育の推進に努める。
- ・横断的教育活動を通して、ボランティア活動等福祉教育の推進に努める。

1 全体評価

○年度初めの「学校経営の基本方針」に基づき、本年度の指導重点項目を設定し、その具現化を図る様々な取り組みを行ってきた。

(1) 学習指導の充実と向上に努める。【知育】

- ・学習、生活規律の確立・時間の遵守・朝のおはようタイムの充実（読書・国語算数のスキル学習）・わかる授業の実践・宿題と家庭学習の推進・言語活動の充実（1分間スピーチ等）・体験的、横断的学習の充実・個に応じたきめ細かな指導（TT指導・補充学習・取り出し指導等）・IT機器（電子黒板、デジタルTV）の活用 など

(2) 心の教育の充実に努める。【徳育】

- ・本物体験（地域素材や人材の活用）・協働による清掃等教育活動の推進・声かけ、あいさつ運動・早寝、早起き、朝ご飯の推進・各行事の充実・縦割り活動の推進・学校、学年、学級だより、HP等の情報発信 など

(3) 健康・安全教育と体力の向上に努める。【体育】

- ・1校1実践の体力づくりの推進・縦割り遊びの充実・個に応じた水泳指導・登下校時の安全対策と指導・健康三原則の推進（食事・睡眠・運動）・保健、給食だよりでの情報発信 など

その他、今年度も、起案方式の継続、移行期間中の教育課程の編成と実施、報告・連絡・相談（さらには確認・提案）の徹底、カウンセラーや県教育センター、医療機関、サポートルームたんぼぼ等関係機関との連携強化など様々な教育活動を行ってきた。

その結果、毎月、毎学期の成果と方向性や視点を明確にすることによって、「全職員の意志統一」が図られることとなり、一步一步ではあるが、多くの観点（項目）で肯定的な結果が得られ、大きな成果を上げることができた。しかし、昨年度の評価結果と比較すると、改善が図られ肯定率が伸びている項目とマナー等に伴い、肯定率が低下した項目もあることから、今後も自己改革を図り、学校評議員や学校関係者評価委員会、また、保護者や地域の方々からのご意見、ご指導もいただく中で、課題解決に向けた具体策を講じると共に信頼される開かれた学校づくりに努めていくことが重要であると考えます。

2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）

I 学校教育目標に関して・学校経営について

達成状況	<p>職場の福利厚生や健康管理（A肯定率）</p> <table border="1"> <caption>職場の福利厚生や健康管理（A肯定率）</caption> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>A肯定率 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H21前期</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>H21後期</td> <td>80</td> </tr> <tr> <td>H22前期</td> <td>68</td> </tr> </tbody> </table>	時期	A肯定率 (%)	H21前期	60	H21後期	80	H22前期	68	<p>H 2 2 前期の内訳</p> <table border="1"> <caption>H 2 2 前期の内訳</caption> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>割合 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A (Aそう思う)</td> <td>68</td> </tr> <tr> <td>B (Bややそう思う)</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td>C (Cややそう思わない)</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>D (D思わない)</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table>	評価	割合 (%)	A (Aそう思う)	68	B (Bややそう思う)	24	C (Cややそう思わない)	4	D (D思わない)	4
	時期	A肯定率 (%)																		
H21前期	60																			
H21後期	80																			
H22前期	68																			
評価	割合 (%)																			
A (Aそう思う)	68																			
B (Bややそう思う)	24																			
C (Cややそう思わない)	4																			
D (D思わない)	4																			
改善策	<p>・1～6の学校教育目標及び学校経営の項目において、A「そう思う」とB「ややそう思う」の自己評価の肯定率が100%である。(⑤は96%)これは、学校教育目標、学校経営方針、本年度の指導重点に基づき、児童の実態に応じた教育実践がなされていることを表している。特に、PDCAサイクルにおいて、昨年度前期まで50%前後で推移していたAの肯定率が70%以上で定着していることは、各行事の実施にあたり、まず、起案段階で管理職や教務の指導、また、音楽部、体育部等各部での事前協議によって、取り組み内容の充実が図られているからである。しかし、上のグラフで表した「職場の福利厚生や健康管理」においては、肯定率が92%ではあるが、前回よりもAが12ポイント下がり、否定率も8%あることからより綿密な情報交換を図る中で具体的方策を講じる必要がある。</p> <p>・全ての項目で高い肯定率を示していることは評価できるが、「職場の福利厚生や健康管理」の改善に向けた具体策としては、教職員相互の報告、連絡、相談の徹底を図り、コミュニケーションがとれた職場づくりや厚生活動を行っていききたい。</p>																			

II 学校運営について

達成状況	<p>相互理解や信頼関係（A肯定率）</p> <table border="1"> <caption>相互理解や信頼関係（A肯定率）</caption> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>A肯定率 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H21前期</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>H21後期</td> <td>88</td> </tr> <tr> <td>H22前期</td> <td>92</td> </tr> </tbody> </table>	時期	A肯定率 (%)	H21前期	60	H21後期	88	H22前期	92	<p>職員会議に積極的（A肯定率）</p> <table border="1"> <caption>職員会議に積極的（A肯定率）</caption> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>A肯定率 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H21前期</td> <td>68</td> </tr> <tr> <td>H21後期</td> <td>80</td> </tr> <tr> <td>H22前期</td> <td>84</td> </tr> </tbody> </table>	時期	A肯定率 (%)	H21前期	68	H21後期	80	H22前期	84
	時期	A肯定率 (%)																
H21前期	60																	
H21後期	88																	
H22前期	92																	
時期	A肯定率 (%)																	
H21前期	68																	
H21後期	80																	
H22前期	84																	

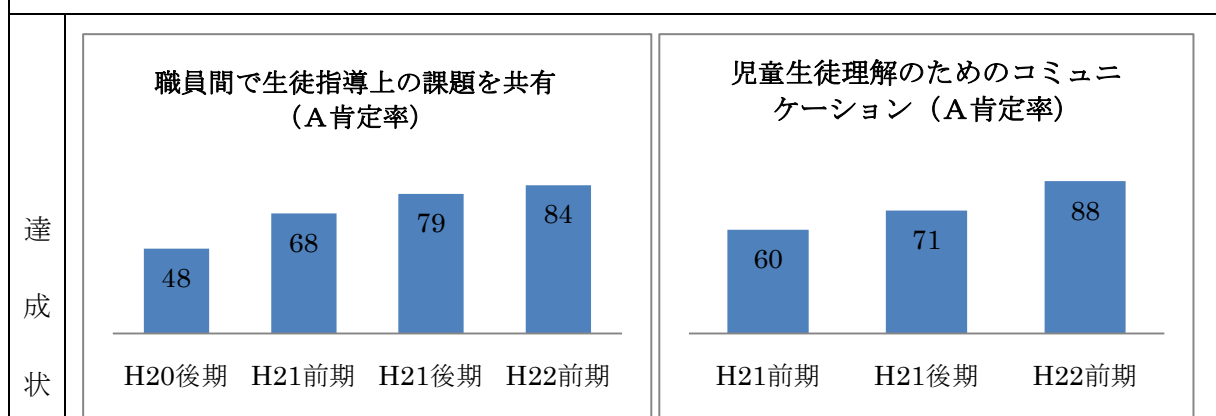
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 1～8の学校運営の項目において、A・Bの肯定率が100%ないしはそれに近い数値である。特に、グラフのように、項目5の「職員会への積極的な関わり」や項目6の「教職員と相互理解や信頼関係を深めての教育活動」については、Aの肯定率が確実に高まっている。また、8の「校内研究」についても、甲斐市教育委員会より、平成21・22年度の2ヶ年間にわたり「言語活動の充実事業」の指定を受け、一分間スピーチの実践等豊かな言語環境づくりへの研究を推進してきているので、各教職員が主体的に校内研究に関わっていることが肯定率の高まりからも伺われる。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> 全ての項目で肯定率が96～100%となっているものの、A肯定率をみると、1の「校舎内外の施設設備の点検、処理・報告」が前回よりも24ポイント、2の「危機管理マニュアルの理解」が20ポイント、3の「諸表簿や文書、記憶媒体の管理・活用」が8ポイント低下している。今後、職員会議や終礼等、機会あるごとに再確認し、学校における安心安全への取り組みの重要性や危機管理に対する意識の高揚を図ってきたい。

Ⅲ 学習指導について

達成状況	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="width: 45%;"> <p style="text-align: center;">民主的で規律ある学級・学年・学校集団づくり (A肯定率)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>A肯定率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H21前期</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>H21後期</td> <td>79</td> </tr> <tr> <td>H22前期</td> <td>89</td> </tr> </tbody> </table> </div> <div style="width: 45%;"> <p style="text-align: center;">学校は楽しいですか</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Aとても思う</td> <td>61%</td> </tr> <tr> <td>B思う</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>Cあまり思わない</td> <td>6%</td> </tr> <tr> <td>D思わない</td> <td>3%</td> </tr> </tbody> </table> </div> </div>	時期	A肯定率	H21前期	60	H21後期	79	H22前期	89	回答	割合	Aとても思う	61%	B思う	30%	Cあまり思わない	6%	D思わない	3%
時期	A肯定率																		
H21前期	60																		
H21後期	79																		
H22前期	89																		
回答	割合																		
Aとても思う	61%																		
B思う	30%																		
Cあまり思わない	6%																		
D思わない	3%																		
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="width: 45%;"> <p style="text-align: center;">個に配慮した授業 (A肯定率)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>A肯定率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H21前期</td> <td>63</td> </tr> <tr> <td>H21後期</td> <td>65</td> </tr> <tr> <td>H22前期</td> <td>78</td> </tr> </tbody> </table> </div> <div style="width: 45%;"> <p style="text-align: center;">わかりやすく教えてくれるか</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Aとても思う</td> <td>72%</td> </tr> <tr> <td>B思う</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>Cあまり思わない</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>D思わない</td> <td>1%</td> </tr> </tbody> </table> </div> </div>	時期	A肯定率	H21前期	63	H21後期	65	H22前期	78	回答	割合	Aとても思う	72%	B思う	25%	Cあまり思わない	2%	D思わない	1%
時期	A肯定率																		
H21前期	63																		
H21後期	65																		
H22前期	78																		
回答	割合																		
Aとても思う	72%																		
B思う	25%																		
Cあまり思わない	2%																		
D思わない	1%																		
	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導についての1～10までの項目の自己評価の肯定率は88%～100%である。特に、上のグラフが示すように、A肯定率をみると「民主的で規律ある学級・学年・学校集団づくり」が89%、「個に配慮した授業」と「基礎・基本の定着を図る授業」がともに78%と高い数値となっている。これは、学習の習得や生活及び生徒指導等において、特別な支援を要する児童が各学級に存在することから、その子を含め、個の発達段階に応じた指導が行われていることをしめしている。また、朝のおはようタイム時における読書タイムや基礎的学力を高める取り組み、また、TT指導や支援員との連携による個に応じたきめ細かな指導等の成果によるものでもある。児童のアンケートにおいても、「学校は楽しいですか」「先生はわかりやすく勉強を教えてくださいか」の肯定率が高いことからその成果が伺える。 																		

改善策
 ・「授業中に質問や意見を言っていますか」の児童アンケート結果において、肯定率がH21前期が73%、H21後期には64%と低下したので、この項目については、言語活動の充実を図るためにも、改善へ向けた取り組みとして、今年度の大きなポイントであった。今回は67%と3ポイントほど上昇したが、これを自己評価の「あなたは、質問や発言が出てくる授業を行っている」の項目に照らし合わせてみると、Aの肯定率が、前回の50%から2ポイント上がり、52%となっており、児童アンケート結果と同じ傾向となっている。このことから、今後も意図的に、生き生きとした質問や意見の出てくる授業を仕組むことが大事である。特に、高学年程顕著にその傾向があるので、単元や題材の適材適所において意図的に仕組んでいく学習指導を行っていきたい。

IV 生徒指導について



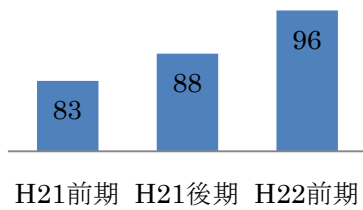
状況
 ・上のグラフのように、毎回、「職員間の生徒指導上の課題の共有」のA肯定率が高まっている。これは、職員間の報告、連絡、相談の指導態勢の徹底が図られていること、さらに特別支援教育コーディネーターを中心として「ケース会議」を即座に開催したり、保護者とのこまめな連絡調整をする中で、カウンセラーの活用や医療機関等多種多様な関係機関との連携を行ったりしていること、また、生徒指導部のこまめな打ち合わせや校内生徒指導委員会の定期的な開催など職員間で生徒指導上の課題を共有した対応も効果を上げている要因である。また、「児童生徒理解のためのコミュニケーション」の高まりも、児童アンケートの「授業でわからないことがあったら、先生に聞けるか」(6ポイント↑)や「困ったことがあったら、相談できる先生がいるか」(4ポイント↑)の肯定率の伸びに繋がっている。

改善策
 ・「生き方教育(キャリア教育)を児童生徒の実態に応じて行っている」の肯定率が82%から95%と大きく上がった。これは、「キャリア教育」が一部の勤労や就業に関わる教育だけではなく、自立力、思考判断力、コミュニケーション力などを身に付けることによって、自分の将来の夢や目標に向かって生きていくことのできる力を育てること等幅広い視点で捉えられるようになってきたからである。しかし、児童アンケートの「将来の夢や目標を持っていますか」の肯定率が92%であること、自己評価の「生き方教育(キャリア教育)」のA肯定率が53%台であることから、これからも具体的方策を掲げる中でキャリア教育の推進を図っていきたい。

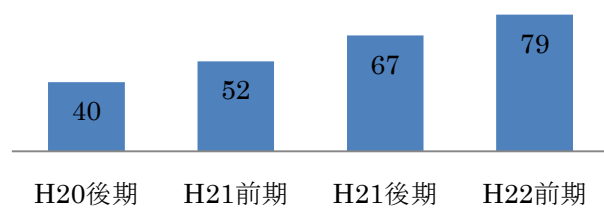
V 地域との連携について

達成状況

地域人材や施設の活用 (A・B肯定率)



学校評議員・学校関係者評価委員会が学校教育に生かされているか (A肯定率)



・1～8の全ての項目の肯定率が95～100%となっている。特に、上のグラフのように、地域人材や施設の活用し、地域の教育力を生かす指導の充実が伺える。また、学校評議員制度や学校関係者評価委員会の結果が学校教育に生かされるようになったのも、教職員へのこまめな情報提供や行事、給食試食等への参加交流の成果によるものと思う。

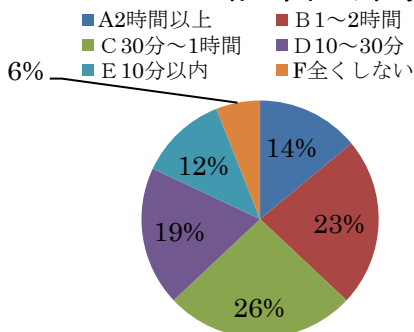
改善策

・今後も学校教育への理解を図るため、各教科、道徳等においてもさらなる地域や保護者との連携と活用に取り組みたい。また、地域の人的、物的教育素材を教育活動へ生かすために、教職員への情報提供と活用への意識高揚も図っていききたい。

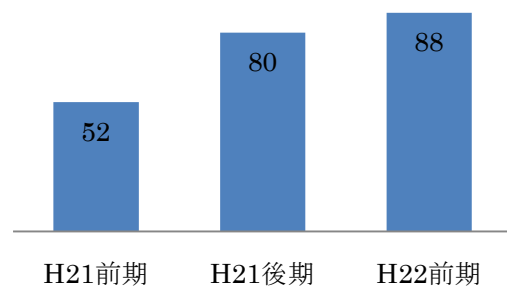
VI 学校の特色に関して

達成状況

1日の読書時間



体育の広場 (A肯定率)



・5のノーチャイム制を除く他の項目の肯定率は、96～100%でAの評価も高い。「挨拶」「読書」「たてわり活動」「音楽広場」「体育の広場」「おはようタイム」の肯定率が着実に上がり安定してきたことは、本校の教育課程上、欠かすことのできない特色ある取り組みであること表している。また、課題であった「体育の広場」が高い肯定率で安定してきたことは、体育主任及び体育指導部を中心として、児童会とも連携する中で具体的且つ計画的に実施されるようになってきたからでもある。新たな項目となった読書時間は、本校の特色ある取り組みである「あじさい読書」「ALTとの読み聞かせ会」「ペア読書」「朝読ボランティアの読み聞かせ」の実施や図書環境の充実等によって大きな成果を収めている。5のノーチャイム制については、H21前期のA肯定率が78%、後期が75%、そして、今回のH22前期が58%と徐々に下がっているため、今年度中にはその運用の方法を再検討していききたい。

3 まとめ

<成果>

- 「学校教育目標・学校経営」について、学校教育目標、学校経営方針に基づく中で、児童や地域の実態にあった教育実践が行われている。
- 「学校運営」について、報告、連絡、相談の徹底や本校独自の起案方式による的確な指導助言によって大きな成果を上げている。
- 「職員会への積極的な関わり」や「教職員と相互理解や信頼関係を深めての教育活動」において、意欲的な協働姿勢が伺える。
- 学習指導について、朝のおはようタイム時における読書タイムや基礎的学力を高める取り組み、また、算数科におけるTT指導や支援員との連携による個に応じたきめ細かな指導等により大きな成果が出ている。
- 「生徒指導」について、職員間で生徒指導上の課題の共有、学校・保護者・地域及び関係機関との連携。また、特別支援教育コーディネーターを中心としたカウンセラーの活用や医療機関、県教育センター、特別支援学校、発達障害情緒障害通級指導教室（サポートルームたんぼぼ）等関係機関との連携は大きな成果を上げている。
- 地域人材や施設の活用を通して、地域の教育力を生かす学習指導の充実が図られている。
- 教職員へのこまめな情報提供や行事、給食試食等への参加交流によって、学校評議員制度や学校関係者委員会の結果が学校教育に生かされるようになった。
- 「学校の特色」に関して、「体育の広場」での体力向上への取り組みが、体育主任及び体育指導部を中心として、児童会とも連携する中で具体的計画的に実施されている。また、「音楽広場」の運営も、各担当者の指導技術を生かすと同時に、音楽主任を中心とした音楽指導部で行うことによって大きな成果を上げている。
- 児童会と連携した「たてわり活動」や「挨拶運動」の充実が図られている。
- 読書活動について、「あじさい読書」「ALTとの読み聞かせ会」「ペア読書」「朝読ボランティアの読み聞かせ」の実施や図書環境の充実等によって大きな成果を収めている。

〈課 題〉

- 今後もPDCA（CA）サイクルを通じた教育実践と評価の具現化を図る。
- 職場の福利厚生や健康管理」の改善に向け、教職員相互の報告、連絡、相談の徹底を図り、コミュニケーションがとれた職場づくりや厚生活動を行う。
- 学びの意欲を喚起し、質問や意見が出る授業づくりを行う。
- 言語活動の充実に向け、豊かな言語環境づくりを行う。
- 新学習指導要領の実施に向けた教育課程の編成やALTと連携した外国語活動（英語）を実践する。
- 児童の実態に合わせ、様々な生き方教育（キャリア教育）を実践する。
- ノーチャイム制について、今年度中にはその運用の方法を再検討する。

※参考

